

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473201042
法人名	社会福祉法人 アドベンチスト福祉会
事業所名	シャローム・ミルトスの木
訪問調査日	平成23年1月27日
評価確定日	平成23年2月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473201042	事業の開始年月日	平成17年1月1日	
		指定年月日	平成17年1月1日	
法人名	社会福祉法人 アドベンチス福祉会			
事業所名	シャローム・ミルトスの木			
所在地	(〒241-0001) 神奈川県横浜市旭区上白根町132-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成23年5月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには市の水路道に沿った桜並木の遊歩道があり、入居者の日々の散歩など車両による危険性もなくゆったりと散策が出来てご近所の方々との交流が楽しめる恵まれた環境にあります。介護に当たって、職員はミルトスの木が如く「心優しく笑顔絶やさない」事を全員で心がけてご利用様の日々自立に向けての支援に取り組んでいます。更にご利用者様には出来る限りのびのびと暮らして頂く為に、本人本位を重視して支援に取り組んでいます。ご利用者様の状況に合わせた外出支援の展開でバスハイクなどレクリエーションにも、力を入れています。そして法人の総合力を活かしての人的フォローや、研修などのサポートを受け、職員の資質向上を図り、ホームでの提供サービスの質の向上につなげています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年1月27日	評価機関 評価決定日	平成23年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◆経営母体の社会福祉法人アドベンチス福祉会は特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、居宅、地域ケアプラザ、保育など6つの施設12の事業で320名の職員を有する法人で「命を敬い・命を愛し・命に仕える」を理念とし「あったかいがいいね」主よ私にあったかい介護を生み出す「あったかい心を」与えてください。など介護の祈りを提唱、合言葉に横浜を中心に事業を展開している。其の事業展開でのグループホームの1つが「シャローム・ミルトスの木」である。

◆グループホーム シャローム・ミルトスの木では法人の理念を基に「加齢と認知症の友和」を謳い、加齢と共に巡り来る症状を友として生きる。の意味を全職員で理解共有し、入居者がありのままに楽しく地域に暮らすと事への支援が日々行われている。

◆法人母体がキリスト教会で週1回牧師の講話と賛歌があり入居者と共に歌い、楽しみながら心を癒し介護に繋げている。

◆シャローム・ミルトスの木では地域交流を重視していて、地域ボランティアの受け入れも活発に行われ、自治会主催の諸行事夏祭り、盆踊り、ケアプラザでのお茶呑み会、地域清掃、ゴミ拾い等にも入居者が職員共々参加して地域交流を図っている。

◆ホームでは入居者の思いもあって散歩など外出支援が積極的に行われ午前、午後に亘るなど希望に応じて実施されており、都度の参加者も多く健康維持に繋げている。

◆ホーム内は利用者と職員で清掃が行われていて玄関、居間などは清潔で異音、異臭なども無く、居心地よく過せる工夫がされている。更に入居者の居室には使い慣れた姿見、椅子、整理ダンスに仏壇、愛用の縫いぐるみ、家族写真に加え自作の絵、習字などによって思いの設えで、過ごし易く工夫された居室作りが支援がされている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	シャローム・ミルトスの木
ユニット名	総合

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を柱とし利用者様の状況や地域のニーズに合わせてながら地域社会に貢献できる事を活動の中に取り組み、地域のなかでの一員という意識を持ちたいと考えている。	法人の理念「いのちを敬い、いのちを愛し、いにちに仕える」を基に、ホーム独自の理念「加齢と認知症の友和」を掲げ全職員で共有認識し、利用者の状況や地域のニーズに合わせて地域社会に生きる事、「散歩時の挨拶、地域行事への参加」等の活動を通じて地域の一員という意識を持った入居者の自立に向けた支援が行われている。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域の行事活動（お祭り等）に積極的に参加している。散歩に出かけた時などは、近所の方への挨拶に心がけている。	日頃の散歩や買い物での外出時は地域の方々にこちらから進んで挨拶をしてホームを知って貰う事で、地域との馴染みに努めている。自治会に加入して自治会からは、祭りや盆踊りなどの案内を頂き、入居者と共に参加して地域とのつながりに心がけている。その他、地域と防災時援助に関する話し合いを行い協力体制の構築に取り組んでいる。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている				
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は、奇数月の第4木曜日に実施している。地域代表、ケアプラザ、利用者代表、利用者家族代表に参加して頂き、活動報告後、意見を伺いサービスの向上に活かしている。	推進会議は奇数月に1度、連合自治会長兼民生委員、区自治会長兼民生委員、包括支援センター職員、利用者家族代表、スタッフ、管理者、本部課長の出席の下に開催している。会議では事業所の現状として入居状況及び活動状況の報告に加え、外部評価結果、ホームの催事計画と防災訓練取り組み報告などを説明し、参加者から質問、気付き、アドバイスを頂き、お互いに協力理解を深めている。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区のグループホーム連絡会に参加し、サービスの向上に努めている。また、市や区と随時連絡・相談をしている。情報提供を受けて市のオムツ給付事業の申し込み、徘徊SOSネットワークの登録をした。	横浜市のグループホーム連絡協議会に加入し、会議には必ず出席している。会員が集まり「より良い連携」について意見交換をし、更には市や区役所からは情報を収集し、研修情報等も得て職員が参加している。また市のオムツ給付事業の申し込みと共に徘徊ネットワークの登録も行い市の窓口とは連絡交流がある。更に生保の関連では生活保護課と連携している。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には出来るだけ参加し、職員全員が身体拘束に留意し、ケアに取り組んでいる。ミーティングの場でも身体拘束の定義や要件等を周知徹底を図っている。玄関の施錠は防犯上に限定しており、内側から利用者様でも簡単に開けられる鍵を使用している。	運営規定（13条7）、契約書（6条3）に拘束は行わないと謳っている。また研修やミーティングの場を持って周知徹底が行われていて、拘束、虐待の禁止について職員は全員が認識している。玄関の施錠は防犯上家族の了解の下に施錠をしている。（但し開錠は内側から容易に出来る。）	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通して意見、要望を伺うようにしている。また、ホーム長やユニット長だけでなく、日常的に他の職員も利用者様、ご家族に声掛けを通じて意見・要望を言いやすい環境を作っている。	苦情及び意見、要望、の相談について重要事項説明9条及び運営規定34条に明記し家族には契約時に説明している。家族会で意見要望が述べられる機会を設け、また運営推進会議への出席も呼びかけ更には家族の訪問来所時に管理者または職員による利用者家族との面接で意見を聴くようにしている。聴取した要望意見はカンファレンスで検討の上運営に反映させ、結果は家族に報告している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人職員会及び月一度行っている全体ミーティング、ユニットミーティングで発言の場を設けている。また、職員間の連絡ノートを活用して決定事項だけではなく、良いアイデアなど記入してもらうようにしている。	法人職員会議、全体ミーティング、ユニットミーティング等を通じて発言の場を作り又、職員間で連絡ノートを利用して提案や意見を出してもらい反映できるよう努めている。加えて管理者と職員の間は新年会、忘年会などを通じて仲間として日常から何事でも気軽に話し合える関係が築かれていて意見要望などを聴いて運営に反映されている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている				
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている				
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に限らず面会は自由に出来るようにしている。また、機会を通じて地域などの行事に参加をして、ホームの近隣がなじみの場所となるように努めている。	日ごろの会話や家族からの情報などで入居者が嘗て関わりを持った場所や人間関係を把握していて、この関わりを維持する為、手紙や電話の取次ぎに加え、懐かしの場所の訪問、知人の来所面接なども本人家族の意向確認の上、お墓参りや以前の住居を訪れるなどにより思いに添えるよう家族との協力で全面的に支援している。また行事参加などを通じて近隣が住み慣れた馴染みの場所となるように努めている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当を置くことで利用者様の希望や意向にそのような援助をしている。言語的コミュニケーションが困難な方は、過去の情報やご家族からの聞き取りなどから利用者本位の援助が出来るように努めている。	居室担当者制を取り、意思表示が出来る入居者には日頃の会話などを通じて直接聴いて意向の把握を行っている。しかし意思表示が出来ない入居者には寄り添いで、表情や行動から汲み取るようにし、また、家族からの情報や生活暦で、一人ひとりの思いや意向を確認して本人本位を前提に対応している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体でセンター方式のアセスメントを行い介護計画を立てて年二回の見直しを行っている。ご本人の意向はもちろんの事、ご家族等の意見も尊重しながらカンファレンスやモニタリングを行い作成にあたっている。作成後は、ご家族に確認とサインを頂いている。	介護計画の見直しは基本的には6ヶ月サイクルで見直し検討が行われている。但し、状態に変化が見られる場合は、随時見直しを行っている。介護計画内容が一人ひとりに適した具体的内容とする為、全職員参加のカンファレンスでセンター方式のアセスメントを行い、加えて職員個々の体験や経過観測結果に基づき意見を述べて、家族や計画作成担当者との話し合で、残存する能力の可能性を加味して介護計画を立案して家族に確認とサインを頂いている。また計画後は時系列的に記録をとりモニタリングを行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックに月2回定期的に往診がある。また、協力病院とも緊急の場合には、優先的に診てもらえる。受診は、本人又は家族の希望を大切にし、医療機関と適切な治療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医の継続受診など本人、家族の意見を尊重し希望の医療機関を決めている。必要情報などは家族を経由して共有している。協力医療機関には緊急時は優先的に診てもらえる中、希望が丘診療所の月2回の定期訪問診療も有り、適切な医療が受けられる支援が行われている。又、時には家族の希望により通院介助支援も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時等において重度化や終末期については説明を行っている。利用者様が入院した場合や体調不良の時だけでなく機会を通じて家族の意向を聞き、出来るだけの支援を行うように努めている。	入所契約時等において重度化や終末期については規定に沿った適切な支援を実施する旨の説明を行っている。利用者が入院した場合や体調不良の時だけでなく様々な機会を通じて家族の意向を聞き、出来るだけの支援を行うように努めている。主治医の指示により、と看取り介護を行うようにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の防災訓練は実施している。非常食や防災用品は常時準備してある。今後、夜間想定での防災訓練も考えている。避難通路の段差の解消をするなど、施設のインフラを整えた。	さまざまな災害を想定し、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加えて非常食や災害対策用品の備蓄を行い、定期的な年2回、の防災避難訓練、を実施して所轄消防署に報告書を提出している。また、避難通路の段差を解消すると共にマニュアルに沿った研修も行い、初期消火活動に加え避難誘導や広域避難場所の説明、災害時の行動手順などの確認を行っている。地域の防災訓練にも参加して緊急時の協力を依頼している。今後夜間を想定した訓練を考えている。スプリンクラー設置は申請済みで10ごろの設置予定である。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者様を名字で〇〇さんと呼ぶように心がけ、一人一人の人格を尊重し、接するよう努めている。ミーティングの場でも否定的な声かけなどをしていないか話し合っている。女性の利用者様で男性の職員の入浴介助やトイレ介助等を嫌がる方には、同性の職員が介助をしている。	ホーム運営方針にある入居者の意思及び人格を尊重した支援と更には、プライバシーの遵守が謳われている事を、日々サービス提供を通じて実践し、ミーティングで不適切な声かけ等ないか確認し合い、全職員間で理解共有している。実際の介護の場面に於いても、利用者の人格を尊重した話しかけと呼びかけでトイレ誘導もさり気なく支援が行われている事を確認できた。また入浴介助では、出来る限り同姓職員による介助が行われている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している				
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の配送サービスを利用しているが、その範囲内で一人一人の好みを日頃より聞き、その方の好きな物を提供できるように努力している。季節や行事に合わせた献立なども提供している。利用者様と職員と一緒に食事の準備、後片付けなど手伝っていただいている。	調理時の下ごしらえや配膳、下膳など等手伝える人にやってもらっている。食材は地元の配送業者を利用して調理が行われているが、好みや リクエストは日常的に話しているので把握して出来ただけ反映に努めている。誕生会時にはケーキ作りで希望に応じている。また、日常の食事では刻み食、流動食など、一人ひとりの健康状況に合わせて食事提供をして、その人のペースに合わせて職員との会話で楽しみながら食事支援が行われていることが調査時の同席で確認できた。正月、敬老の日、クリスマスには特別食で支援がされている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを記録表より把握して、その方のしぐさや行動パターンより排泄のタイミングを見極め、声かけや誘導するように心がけている。	「排泄チェック表」により一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し、仕草や行動に加え時間を見計らった個人別のトイレ誘導で適切な支援を行い、出来るだけ自力で排泄を試みる事によりオムツの使用量を減らす工夫が、方針の「日常生活の中で心身の機能訓練を行うことで能力に応じた自立して営む機能の維持又は向上を目指す」に則り支援として行われている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の嫌いな方には、入浴剤を入れたり、優しい声かけなどで、対応している。曜日や時間帯にはこだわらず、その方が気持ちよく入浴していただけるように心がけている。また、季節に合わせて柚子や菖蒲などをいれて、入浴を楽しんでいただけるよう配慮している。	入浴は、清潔保持、身体観察、体調変化の把握などが効用と考え、バイタルチェックと共に無理強いのことなく本人の意向を確認しながら一人ひとりの希望に合わせて、曜日や時間帯に拘らず、入浴支援を行なっている。嫌がる人には、再度の声かけ等で入浴を促している。気分転換に、季節の菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな方が多いので、天候のよい日は必ず散歩に出かけている。ADLが低下して散歩に行けない方には、テラスで外気浴をしていたき外の空気に触れてもらえるように配慮している。年に1度、バスを貸しきり日帰り旅行を企画してご家族にも参加していただいている。	散歩が好きな方が多いので、天候のよい日は必ずホーム近くのコースへ散歩に出かけている。ADLが低下して散歩に行けない方には、テラスで外気浴をして頂き、外の空気に触れてもらえるように配慮している。年に1度、バスを貸しきり日帰り旅行（昨年は箱根）を企画してご家族にも参加して頂いている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に共有空間の掃除をして常に清潔に保てるよう心がけている。空調や照明など不快感を与えないよう随時調整している。また、七夕の笹飾り、クリスマスのツリーなど季節感を感じるように置物、飾り付けをおこなっている。	玄関、階段、トイレ等全ての共用場所の掃除が利用者と共に行なわれていて清潔が保たれ、異音、異臭なども無く、テラスを通しての採光も良く、キッチン続きの食堂兼居間は空調に配慮され、また一段高くなった畳のコーナーもあり入居者が腰を掛けたり、思い思いに過ごせる様になっている。壁面には四季折々の入居者が作った作品が展示され、家族の来訪時に話題として利用されるなど、寛げる空間作りがされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望者にはベッドのレンタルもしているが、基本的にエアコン、クローゼット以外は設置しておらず、持込の制限を一切せず昔から使い慣れているものを持ってきていただいている。壁にはイベントで取った写真やレクで作成した作品などを飾るなど居心地が良く過ごせるよう工夫している。	入居者各人の部屋にはエアコン、クローゼットの他に、希望者にはベットレンタルも行われていて、更に使い慣れた思い出の品が持ち込まれていて、姿見や、椅子、ベット、と共に家族写真、ぬいぐるみ、仏壇等も置れ、一人ひとりの思いの設えで生活拠点が作られている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

事業所名	シャローム・ミルトスの木
ユニット名	B

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を柱とし利用者様の状況や地域のニーズに合わせながら地域社会に貢献できる事を活動の中に取り組み、地域のなかでの一員という意識を持ちたいと考えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域の行事活動（お祭り等）に積極的に参加している。散歩に出かけた時などは、近所の方への挨拶に心がけている。	ゴミ出しの時や散歩に出かけた時などに近所の方へ挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで、自治会長、民生委員、ケアプラザ職員、利用者家族等に認知症の理解を深めてもらい、地域の方々の支援をお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は、奇数月の第4木曜日に実施している。地域代表、ケアプラザ、利用者代表、利用者家族代表に参加して頂き、活動報告後、意見を伺いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区のグループホーム連絡会にさんかし、サービスの向上に努めている。また、市や区と随時連絡・相談を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には出来るだけ参加し、職員全員が身体拘束に留意し、ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人理念に則りあたたかい介護を心がけている。また、虐待に陥らないよう職員の心的疲労について理解し、ストレスが軽減できるよう職場環境の配慮を行うなどして防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を必要としている利用者様はいないが、計画作成担当者は外部研修に参加して、多くの学びを得てきた。また、管理者や他の職員も外部研修に参加し学ぶ機会を持つ努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、疑問や不安がないように細かく質問に応じている。入所の際には、契約書・重要事項説明書をと通して詳しく説明を行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通して意見、要望を伺うようにしている。また、ホーム長やユニット長だけでなく、日常的に他の職員も利用者様、ご家族に声掛けを通じて意見・要望を言いやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人職員会及び月一度行っている全体ミーティングで発言の場を設けている。また、職員間の連絡ノートを活用して決定事項だけではなく、良いアイデアなど記入してもらうようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月第4酢曜日のグループホーム運営委員会を通し、管理者から職員の状況等を聞き、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修には積極的に参加することが少なかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の集まりなどには、出来るだけ参加している。旭区のグループホームの事業者との情報交換に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接には、ご本人の自宅又は、その方の利用している事業所或いは病院などに出向いている。また、事前にグループホームを見学して頂き、話す時間を多く持つ様にしている。そして、最善な支援が出来るようにご家族からの多くの情報を得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の心のケアも重要であると考えており、見学や面談など十分な時間を確保し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用の有無に関わらず相談にのっている。その際、他のサービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、利用者様には尊敬の念を忘れないようにと心がけている。常に支えあうという関係でありたいと考えている。また、多種の活動や生活を通し、楽しく過ごして頂けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を大切にしながら、常時ご家族と相談しあえる関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に限らず面会は自由に出来るようにしている。また、機会を通じて地域などの行事に参加できるように勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間などで、利用者様同士が会話をされたり、レクレーションを通して一緒に共同作業をする場を作り、お互いを認め合い思いやれる関係を職員と共に作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人の特別養護老人ホームに入所された利用者様とご家族とは、行事などで顔を合わせる機会もある。この時、話をする時間を作り、退所はしても退所をしても繋がっているという安心感を感じていただけるような関係を大切にしている。退所者の来所も受け入れている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当を置くことで利用者様のこえには出されない声を聞き、希望や意向に副えるような援助をしている。言語的コミュニケーションが困難な方は、過去の情報やご家族からの聞き取りなどから利用者本位の援助が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族（入所時、センター方式の用紙に出来る範囲に記入して頂くなど）と担当ケアマネージャーから情報収集をしている。必要に応じて、入所後もご家族から聞き取りを行いアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや業務日誌、連絡ノートを活用し心身状態の把握に努めている。さらに医師の指導や看護師の記録、生活記録にファイリングして健康状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体でセンター方式のアセスメントを行い介護計画を立てて年二回の見直しを行っている。ご本人の意向はもちろんの事、ご家族等の意見も尊重しながらカンファレンスやモニタリングを行い作成にあたっている。作成後は、ご家族に確認とサインを頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、職員の気づきや情報を職員間の連絡ノートに記録し、利用者の情報を共有して、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出やバス旅行のときなどは、車椅子を使用する利用者のために法人内から車椅子を借りている。法人内の行事や地域ケアプラザのイベントにも参加している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌の会、津軽三味線など定期的にボランティアのかたに来訪して頂いている。町内会の催しなど積極的に参加している。また、近く地域ケアプラザのお茶のみ会にも出席している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックに月2回定期的に往診がある。また、協力病院とも緊急の場合には、優先的に診てもらえる。受診は、本人又は家族の希望を大切にし、医療機関と適切な治療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算をとっており、週1回法人内の看護師による健康管理と相談をおこなっている。また、利用者様の具合の悪い時は、24時間連絡をとり、適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換は、積極的に行っている。また、入院中は、なるべく面会し、利用者様の状態を医師や看護婦より様態を聞いている。退院時には、ご家族にも来て頂き、今後の注意事項など伺い、利用者の回復に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時等において重度化や終末期については説明を行っている。利用者様が入院した場合や体調不良の時だけでなく機会を通じて家族の意向を聞き、出来るだけの支援を行うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、全体ミーティングなどで、緊急時の対応について話し合っている。定期的な訓練は行っておらず今後の課題である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の防災訓練は実施している。非常食や防災用品は常時準備してある。今後、夜間想定の方針訓練も考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者様を名字で〇〇さんと呼ぶように心がけ、一人一人の人格を尊重し、接するように努めている。女性の利用者様で男性の職員の入浴介助やトイレ介助等を嫌がる方には、注意を払い、同性の職員が介助をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人に個人的に援助するように心がけている。特に自己主張をされない方には、気を配り、その方の思い出や希望を聞くように努め、なるべく自己決定のできる雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者の体調や気持ちに副って無理のない援助に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など本人に衣服を選んでもらい、季節感のある服装を着衣していただき、髪の毛などを整えるように心がけている。散髪なども定期的にホームで行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを日頃より聞き、その方の好きな物を提供できるように努力している。利用者様と職員と一緒に食事の準備、後片付けなど手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量摂取は記録に取り、水分補給の少ない方は、脱水に気をつけるために水分量も記録している。食事の量又は嚥下力に応じて、量の調整、刻み食などに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、必ず口腔ケアを行っている。介助が必要な方は、声かけにて丁寧に対応している。自立している方には、見守りしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを記録表より知り、なるべく定期的に行うのでなく、その方のしぐさや行動パターンより排泄のタイミングを見ながら誘導するように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事でも野菜を多くメニューに入れ、散歩できる方は、職員の付き添いで歩いいただく。毎日の排便チェックをおこない、便秘のかたには、医師からの処方された薬を服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の嫌いな方には、入浴剤を入れたり、優しい声かけなどで、対応している。曜日や時間帯には、こだわらずその方が気持ちよく入浴していただけるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏の暑い時にはクーラーを入れたり、冬の寒さに応じて入床前暖房を入れて部屋を暖め、気持ち良く入眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、効用、副作用などの説明書を必ず読むように指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味、嗜好品などの把握に努めている。カラオケやドライブに出かけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には、戸外に出たり、外気浴に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	催し物、お祭り、バザーの時などそれぞれお小遣で買い物の楽しさを味わっていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときには、かけていただき、手紙を出すことを頼まれたときにはそれに応じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じるように置物、飾り付けをおこなっている。特に七夕、クリスマス、正月等には、利用者の個性に副った飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと食堂が繋がり、広い空間があり、自分の好きな居場所をもてるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、昔から使っている家具を持ってきてもらい、カーテンの色、布団カバーなど明るい物を家族にお願いして、心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見通しの良い建物構造となっており、一人一人の利用者様の居室の前に写真、名札を表示して、見やすく分かりやすくしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

シャロームミルトスの木

作成日

平成23年1月27日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	居室担当制を設けたが、十分に機能していない	利用者様の希望や意向を尊重する援助を行う。	居室担当者は、利用者様とのコミュニケーションを密にし、日常生活の観察に留意をして利用者様本位の援助をする。	6ヶ月
2	34	十分な緊急対応のマニュアルの作成がなされていない。	マニュアルの作成を行う。	利用者様の急変時や事故発生時のマニュアルをつくる。	3ヶ月
3	35	予定していた避難訓練の実施が出来なかった。	夜間想定での避難訓練を行う。	訓練を実施するためにも近隣住民の協力を要請する。	6ヶ月
4	13	職員の退職者があり、補充が出来ず研修への参加する機会が少なかった。	職員個々のレベルに合わせた研修への参加	職員の補充をし、勤務体制を充実し、研修の参加を進めスキルアップを図る。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。